



# JICA JOURNAL

日本公認会計士協会準会員会 広報誌 COMMUNICATION MAGAZINE

2023.6-2024.6

## 日本公認会計士協会準会員会とは

日本公認会計士協会準会員会とは、会計士補と公認会計士試験合格者（以下、併せて準会員）の6,801人（2024年10月30日現在）で構成される、オフィシャルな若手組織です。準会員会は、北海道分会、東北分会、東京分会、東海分会、近畿分会、中国分会、四国分会、北部九州分会という8つの地方分会から成ります。各分会の幹事は、準会員の資質の向上、準会員相互の交流および業界の発展に寄与することを目的として、主に以下のような活動を行っています。

1

講演会・勉強会や交流会などの準会員向けイベントの企画・開催

2

就活セミナーなどの公認会計士試験合格者向けイベントの企画・開催

3

主に高校生に向けて公認会計士を紹介する「そうだ、母校に帰ろう!」企画・開催

4

著名人や様々な分野で活躍されている先輩方へのインタビュー

5

海外の法人視察や海外で開催される研究大会への参加、[Global Journal]発行などの国際活動

6

活動報告を目的とした「JIJA Journal」の発行をはじめとした広報活動

## 2023年度活動報告

2023年6月～2024年6月

2023年度に開催した活動の紹介は、当冊子の活動報告のページをご覧ください。

その他、過年度に実施したインタビュー記事や活動報告、今後開催予定のイベント等、準会員会の活動に関する様々な情報を準会員会HP(<https://www.jija.jicpa.or.jp>)に掲載しております。「準会員会」で検索ください。

# JIJA JOURNAL

2023.6-2024.6

## CONTENTS

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 1 各分会の活動報告                | 4  |
| 1.1 北海道分会                 | 4  |
| 1.2 東北分会                  | 4  |
| 1.3 東京分会                  | 5  |
| 1.4 東海分会                  | 7  |
| 1.5 近畿分会                  | 8  |
| 1.6 中国分会                  | 8  |
| 1.7 四国分会                  | 9  |
| 1.8 北部九州分会                | 9  |
| 2 2023年度海外視察 in Singapore | 10 |

### JIJA JOURNALとは

準会員会の活動報告、情報発信のためのコミュニケーションマガジン。準会員会では、掲載したもの以外にも様々な活動を行っています。詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.jija.jicpa.or.jp>



## 幹事活動を通じてできること

- **個人では困難な企画を実現できること**  
準会員会の幹事は、組織として活動できることから、大きなイベントを企画することや、個人では接することが難しい相手へのインタビューなどができます。また、そうした企画を実現することは、大きな経験にもなります。
- **地域や年次を超えたネットワークができること**  
幹事活動を通して、他の地域分会の準会員と交流したり、協会役員や各地域会の方々と交流する機会があります。こうした所属の壁を超えた交流という経験は、日々の業務に携わるだけでは得られない貴重なものにもなり得ます。

これから準会員になる方も、本業だけでは物足りなさを感じている準会員の方も、よろしければ一緒に幹事活動をやってみませんか。ご興味のある方は準会員会HPのお問い合わせフォーム、またはお近くの幹事へお問い合わせください。

HPへのアクセスは  
<https://www.jija.jicpa.or.jp>から、  
もしくは「準会員会」で検索を！



## 準会員会の組織について



## 各分会の活動報告



### 北海道分会

2023年度は新型コロナウイルス感染症の影響も随分と落ち着いた着き、イベントにしましては以前のように開催することができるようになりました。

まずは、2023年7月にコロナ禍以前からの恒例行事であった協会との合同開催のビアパーティーを行いました。幅広い年代の方にご参加いただき、会員・準会員の垣根なくコミュニケーションを図ることができました。また、2023年10月に名古屋にて、2024年2月に大阪にて開催された全国幹事会にも参加することができました。北海道分会からの現地

参加は数年ぶりであり場になじめるかと不安もございましたが、他の分会の皆さまが暖かく迎えてくださり、その後の交流にもつながったため、このような機会があることを大変ありがたく感じた次第です。

そして北海道分会に新たなメンバーを迎え、2024年1月に歓迎の意を込めて新年会を行いました。J1にとってもさることながら、J2、J3においても、業務上では交流を持ってないメンバーと親睦を深める良い機会となりました。同月には、毎年近畿分会に開催いただいているエクセルセミナーに、北海道分会としましてもオンラインでつないでいただき、参加することができました。実務を行う上でエクセルの知識は必須であり、活用方法を知っているに越したことはありませんので、大変有意義であったと感じました。

2024年度も交流の輪を広げるべく、当分会でのイベントが開催できたら良いかと考えております。引き続き北海道分会をよろしく願っています。



### 東北分会

2024年度東北分会は、監査法人所属の1、2年目を中心としたメンバーで、昨年度の14名を上回る18名で活動していくこととなりました。

これまでの主な活動内容は以下の通りです。

- ・2024年1月27日(土)「公認会計士制度説明会・交流会」
- ・2024年6月19日(水)「仙台大原簿記情報公務員専門学校・公認会計士制度説明会」

2024  
1/27

### 公認会計士制度説明会・交流会

2024年1月27日(土)に公認会計士短答式試験受験生を対象に、「公認会計士制度説明会・交流会」を日本公認会計士協会東北会と共催で4年ぶりに開催いたしました。

歓談の時間では、立食形式での食事を楽しみながら受験生との交流を行いました。受験生からは、実際の監査現場ではどのようなことをするのか、受験勉強の方法などについての質問を受け、各々が興味のある

「ことについて質問できていた様子でした。準会員と受験生の交流だけでなく、受験生同士での交流も活発に行われており、情報共有が積極的に行われていました。参加者の方からは、「実際の監査現場のイメージがついた」ととても参考になった」などの好意的な感想をいただきました。



2024  
6/19  
仙台大原簿記情報公務員  
専門学校・  
公認会計士制度説明会

2024年6月19日(水)に仙台大原簿記情報公務員専門学校で短答式試験や日商簿記1級の合格を目標にしている学生約100名を対象に公認会計士制度説明会を行いました。公認会計士の業務内容に関する説明をし、公認会計士が社会において重要な役割を担っていることを伝えることができました。また、大原卒業生による説明では、公認会計士を目指したきっかけから監査法人での実務に関するお話をしました。仙台大原の学生を対象とした説明会は初めての開催でしたが、学生にとって将来のキャリアをイメージする良い機会になったと思います。

準会員会東北分会はさらに活動を活発なものとして、東北地域の公認会計士試験受験者数・合格者数の増加、ひいては公認会計士業界の発展に貢献していきたいと考えております。



東京分会

2023  
9/24  
監査歴33年の元BIG4  
パートナーが語る  
「ごでしか聴けない  
会計監査の魅力」

2023年9月24日(日)に、CPASS LOUNGEにて開催いたしました。

本イベントは、準会員の多くがキャリアに対して抱える「自分に向いていること」や「資格をどう活かすべきか」といった悩みに応えることを目的として計画いたしました。

キャリアの選択肢が広いために迷いを感じる準会員も多く、そんな悩みを解消するために、元大手監査法人パートナーで30年以上の監査のご経験があり現在様々な媒体で会計監査について発信している玉井照久様(通称…てりたま先生)を講師に招きました。

当日は、監査法人に勤務する準会員を中心に約40名に参加いただきました。てりたま先生は、長年の監査経験に基づく具体的なエピソードを通じて、会計監査の魅力や意義について熱く語り、参加者たちの監査に対する考え方をポジティブに変える内容となりました。また質疑応答セッションでは、多くの質問が寄せられ、特にキャリアに関する悩みや疑問に対し、てりたま先生が丁寧に回答する場面が目立ちました。多くの参加者が自身のキャリアについて

新たな視点を得ることができました。本イベントは延期を経て開催されましたが、結果的に非常に盛況となり、参加者からのアンケートでも高い満足度を確認することができました。

準会員会では今後も、準会員が自らのキャリアの可能性を広げ、より良い選択ができるようなイベントを引き続き企画・実施してまいります。



2023  
10/1公認会計士×  
ソーシャルビジネス会計士は社会課題の解決に  
どのように関わるか

2023年10月1日(日)にCPASS  
ラウンジ及びリモートのハイブリッド形  
式で開催いたしました。本イベントは、  
ESG、サステナビリティ、非財務情報  
…これらのキーワードが注目される中、  
キャリアとして社会問題の解決に取り組む  
「ソーシャルキャリア」を歩む会計士が増  
えていることを背景に、准会員の将来の選  
択肢を広げるため、公認会計士のソーシャ  
ルキャリアの勉強会として企画いたしまし  
た。講師には、社会課題に挑む公認会計  
士のプラットフォーム形成を目指すNPO  
法人Accountability for  
Change様より、池山允浩様、工藤裕  
希様、新田くるみ様の公認会計士の御三  
方にご登壇いただきました。

イベントでは、「ソーシャルキャリアの歩  
み方」「社会課題の解決を本業とする先輩  
公認会計士のご紹介」「若手公認会計士が  
行うプロボノの体験談」等豊富なコンテン  
ツを実施いたしました。

「ソーシャルキャリアの歩み方」では、ソー  
シャルキャリアという働き方を初めて耳に  
する参加者に向けて、ソーシャルキャリア  
の概要から、具体的な関与の仕方をご説  
明いただきました。また、「社会貢献を本  
業とする先輩公認会計士のご紹介」では、  
公認会計士としての専門知識を活かして  
社会課題の解決に本業として取り組まれて  
いる先輩方のキャリアをご紹介いただきま

した。さらに、「若手公認会計士が行うプ  
ロボノの体験談」は、講師の方よりご自身  
が実際に参加されたプロボノ活動の体験  
談をお話いただき、そこで学んだ教訓を  
ご共有いただくことで、会計の専門性を生  
かした社会貢献を身近に感じることができ  
ました。

イベントを通して、公認会計士のスキル  
や経験を生かした社会貢献の方法やキャリ  
アの選択肢を直接伺うことができ、准会員  
の今後のキャリアの選択肢を広げるきっか  
けとなりました。実施後のアンケートでは  
参加者の皆様から「公認会計士の新たな働  
き方を知ることができた」「先輩公認会計  
士の皆様の具体的なキャリアを学ぶことで  
自分のキャリア選択肢が広がった」などポジ  
ティブな意見を頂くことができ、イベントの  
高い満足度を確認することができました。  
准会員会では、今後もこのような会員・准  
会員の皆様の将来の選択肢を広げるきっか  
けとなるイベントを開催していきますので、  
引き続きご参加いただけますと幸いです。

2023  
12/2実務補習に対する生の  
御意見をお聴かせください。

2023年12月2日(土)に会計教育研  
修機構(以下、機構)主催で「実務補習に  
対する生の御意見をお聴かせください。」  
を実施しました。日本公認会計士協会東

京会青年部(以下、青年部)日本公認会計  
士協会准会員会(以下、准会員会)は共催  
で本イベントに携わりました。

本イベントは対面とオンラインのハイブ  
リッド形式を採用しました。ご登壇をいた  
だいた手塚様、鶴田様、菅様、イベントの  
企画・実施に際してご協力を頂いた日本  
公認会計士協会(以下、協会)、機構、青  
年部の皆様に感謝の意を申し上げます。

企画に至った経緯は、機構の理事長を務  
められている手塚様は修了者查の合格率  
が低下した時期を契機に、現行の補習所  
のあり方について今後の改善点を模索した  
いと仰っていた一方で、我々准会員として  
は補習所に通っている間、特にカリキュラム  
の70%近くを受講するJ1では修了者查  
を強く意識したことがないというギャップ  
が存在していたことです。

機構も補習所に関するアンケートを実施  
していますが、アンケート項目に留まらな  
い補習生の意見を把握したいとのニーズを  
抱いていました。そこで准会員会からは、  
会員や准会員に対して忌憚ない意見を集  
められるイベントを提案しました。

本イベントの趣旨から、補習所に対する  
ニーズの把握や改革は業界全体に関わる  
ものであるため、機構を主催として、会員  
と准会員のイベントの告知や募集、運営補  
助として青年部と准会員会が共催で携わ  
りました。

イベント当日は補習所に過去に通われて  
いた会員の経験や現在補習所に通っている  
准会員の経験に基づいた建設的な意見が  
届けられました。手塚様は意見に対する

返答や現場の課題を参加者に伝達し、ま  
た未了の意見については今後対応を進める  
姿勢を示し、終始納得感を持ったやり取り  
が行われました。

本イベントは今後どのような改善を実施  
したのかという報告やさらに新しい意見を  
提供する形で継続して行うことで意味を成  
すものです。

2024年には「講義に関するお問い合わせ」  
、「実務補習に関するFAQ」、「実務  
補習復習用eラーニング講座(2023年  
期)」の開設など、機構は新たな取り組み  
を開始しています。まだ実務補習所も改革  
途上ではありますが、このような取り組み  
の契機となる一助を担えたのであれば当イ  
ベントを実施した意義があると思います。

協会や機構と准会員で意見を活発に交  
わすことで新たな取り組みに繋がられ、ひ  
いては業界の発展に繋がるような好循環を  
准会員会か  
らも築き上  
げていく所  
存です。



2024年6月16日(日)に、一般社団法人日本スーツ大学代表理事である中村武雄様をお招きして、ビジネススタイルについて基礎から最新の知識までをご紹介します。セミナーを開催しました。

「人は見た目が9割」と言われているように、知らないうちにスーツの着こなし方で他者からの評価や印象に差をつけられている准会員もいるかもしれません。正しい服装や着こなし方、正確な知識を学ぶことで、クライアントや上司、同期や後輩にも一目置かれる存在となり、頼りになる公認会計士という印象を与えられるはずです。そのため、今回のセミナーを通してスーツの正しい着こなしを学び、仕事へのモチベーションを高める手助けになればと、東京分会では2017年度から毎年「スーツセミナー」を企画しております。

セミナーでは、中村様が推薦するスーツやシャツ、小物、革靴のコーディネートについての講義や、女性のオフィスカジュアル、ビジネススナナーなどについてもご紹介いただきました。昨年度はオンラインでの開催でしたが、今年度は対面形式での開催であったため、スーツを着用し参加した准会員達のスタイルを見ながら参加型で学ぶことができました。特に丸山代表幹事は昨年のセミナーを受講しており、当日は中村様のテラーで仕立てたスーツを着用して参加していました。投影しているス

ライドだけでなく、お手本となるスーツの実物を見ながらご紹介いただくことで、スマートな着こなしを体感することができました。イベント後、その場でスーツのオーダー予約をする意欲的な方もいらっしゃいました。

公認会計士試験に合格して間もない准会員にとって、当セミナーは今後の社会人人生においてとても有意義なものになったと思います。リモートワークが一般化してきている現代だからこそ、スーツの着こなしや見た目に無頓着になってしまいがちです。そんな中で、見た目の重要性について再確認するきっかけになったのではないかと思います。東京分会では、今後も准会員の役に立つコンテンツを提供していきますので、ぜひご参加いただけますと幸いです。



## 東海分会

2023年度、東海分会は監査法人所属のJ2、J3を中心とした15名で活動し、近畿分会と共同でExciteセミナー(1月6日(土)開催)を開催しました。

Exciteセミナーは、新J1を対象として毎年近畿分会が主催しているイベントであり、当イベントに東海分会も参加させていただく形となりました。名古屋に会場を借りて近畿分会とオンラインでつなげることで、東海分会の新J1の皆様も名古屋で対面にてExciteセミナーに参加いただきました。会場では東海分会メンバーもあり、対面で参加者の皆のサポートも実施しました。J1の参加者は6名1チームとなり、セミナーを受講しつつ、不透明なグループメンバーで議論したり、東海分会メンバーに質問したりするなど皆様には積極的にセミナーに参加いただきました。会場の東海分会メンバーの人数も少なく、皆様を十分にサポートできなかったかもしれませんが、参加者の皆様には多数の質問をしていただいたり、真剣に話を聞いていただいたりという内容がとても充実したものであったと思います。また、セミナー終了後には東海分会メンバーと1時間程度交流する時間を設けました。Exciteに関する質問はもちろん、それぞれ所属する法人での実務の経験や補習所の経験、准会員会の活動など、新J1の皆様が疑問

不安に感じていることを解消することができました。東海分会としても、当イベントの開催を通じて東海分会では経験が少ないセミナーの実施方法についても学ぶことができました。

2024年度は、東海分会の活動メンバーはこれまでのJ3中心からJ1中心の体制となり、より若手の意見を反映した活動を行っていく予定です。前年度でつけた勢いや各地域とのつながりをバネに、引き続き活発に活動していきたいと思っております。今後とも東海分会をよろしくお願いたします。





なり、監査法人と実務補習所に入所されて間もないJ1の皆様の疑問・不安などに先輩方がアドバイスを送る場を提供しようと考えております。

監査法人の研修期間が終わり初往査を体験した話、補習所の講義や考査の向き合い方など、J1からJ3という監査法人に入つて日が浅い準会員ならではの話で準会員会同士の親睦が深まることを期待しております。

最後になりますが、お忙しい中でありながらイベントに参加を希望してくださった皆様に厚く御礼申し上げます。



## 四国分会

四国分会の活動では、2024年3月に新たに四国分会へ入会していただいたメンバーの新人歓迎会を開催いたしました。四国分会は少人数の分会であるため、分会員同士の距離が近く、年次・法人の垣根を超えた交流ができ、有意義なひと時を過ごすことができました。今後も交流の場を設けることで、分会員同士で切磋琢磨して頂くことができると存じます。本年も変わらぬお引き立てのほど、よろしく願います。



## 北部九州分会

2024  
1/20

### 課題研究論文 ブラッシュアップワークショップ

2024年1月20日、北部九州分会の新たな取り組みとして課題研究論文ブラッシュアップワークショップを実施致しました。

近年、論文式試験合格者の若年化に伴い卒業論文等の論文執筆経験がない実務補習生は増加傾向にあり、特に1年目の実務補習生の方々は初めての課題研究論文執筆に大きな不安を感じていらっしゃる。本ワークショップはこのような現状を改善すべく企画することとなりました。

当日は西南学院大学准教授兼公認会計士の原口先生にご登壇いただき、論文執筆時の留意点の共有や事例を用いたグループディスカッションを通じて論文執筆に関する知見を深めました。40名の実務補習生の皆様からは事後アンケートで平均4.8点(5点満点)と高評価をいただき、新規ながら充実したイベントを実現できたことを大変嬉しく思います。この場を借りて本ワークショップ開催にあたってご尽力いただきました原口先生、そして北部九州会の皆様、補習所運営委員の皆様、厚く御礼申し上げます。

さて、2023年度は九州での準会員会の認知度が低い状態からのスタートで

あったこともあり、年度初めの想定よりもイベントを展開できない結果となりましたが、2024年度は大学とのコラボを中心としてより多くのイベントにチャレンジしていきたい所存です。このチャレンジを通じて若手の力で九州を盛り上げ、ひいては全国を盛り上げていきたいと考えておりますので、引き続き皆様のお力添えをよろしく願っています。



グループディスカッションの様子



集合写真

# 2023年度海外視察 in Singapore



11月28日から12月2日の期間で、準会員会幹事4人が海外視察のためシンガポールに渡航した。本記事では、現地で見られた多くの写真とともに海外視察の様子をレポートする。

本海外視察は搭乗予定の飛行機の出発時刻が約12時間遅れるという大波乱とともにスタートした。チャンギ国際空港に到着したのは真夜中の3時過ぎ、じっとり汗ばむホテルまで道のりも静まり返り、東南アジアの騒がしいイメージとは打って変わって不気味なほどであった。

次の日、寝不足の中で向かったのはISCA (Institute of Singapore Chartered Accountants/シンガポール勅許会計士協会)主催のConferenceである。このConferenceはかの有名なマリーナベイサンズにて開催され、およそ

1,000人が参加する大規模かつ煌びやかなイベントであった。

ConferenceはISCAのトップと財務大臣による挨拶から幕を開け、4つの基調講演・パネルディスカッションを経て、ランチ後は各種セミナーに参加するようなスケジュールであった。非常に印象的だったのは冒頭の4つの基調講演・パネルディスカッションのうち、3つがサステナビリティ関連で1つが生成AI関連と、非常に偏った構成となっていたことだ。昨今、日本でもこの二つのトピックがよく取り沙汰されているものの、シンガポールにおける熱量の高さは圧倒的であり、もっとキャッチアップしていかなければならないのだと強く感じた。また、ConferenceにはBIG4をはじめとする監査法人だけではなくSA

Pなどの会計に関連する企業が数多く出展しており、各企業のブースを回るだけでも大きな刺激になった。イベントの終盤ではカクテルパーティーも開催され、ISCAのメンバーからも声をかけてもらうなど、様々な方とコミュニケーションが取れたのもとても良い経験になった。

大盛況のConferenceから一夜、二日目はシンガポールで活躍する日本人公認会計士3組へのインタビューを実施した。一人目はBIG4でのマネージャー経験をjを経て、シンガポールで独立された壺谷啓一郎さんである。壺谷さんはもともと海外で働くことについて強い興味があったわけではなかったが、クライアントが海外の会社を買収して子会社化したことをきっかけに、海外で働く道を選ばれたとのことであった。キャリアを歩んでいく中で自問自答を繰り返したのちに、「生きていく時間を充実させたい」との信念に突き当たり、現在に至るまで様々な活動に邁進されている。壺谷さんは若手公認会計士に対して「監査をしっかりとやって欲しい」と語って



ださった。監査はリスク評価したのちに、リスクの高い分野に対して目的・手続・結論を形成していくが、これらを遂行するスキルは普遍的に必要とされるスキルであるからだと壺谷さんは言う。様々なキャリアパスがあるからこそ悩みを抱える若手公認会計士も多いが、今自分がしている監査という仕事が少し誇らしくなるようなインタビューであった。

次にお会いしたのは、株式会社フエニックス・アカウンティング・グループの伊藤さん・中島さん・山本さん・福島さんである。様々なお話を伺いする中で最も印象に残ったのは、公認会計士はバックオフィス業務の全てに精通する必要があるというお話だった。公認会計士はフロント業務を支えるプロフェッショナルとして大きな





可能性を秘めており、活躍の場を広げるためにもテクニカル面のシャープさを持つコミュニケーション能力を高めていくことが大切であることが再認識出来た。伊藤さんは海外で成功するのは2回目以降であることが多いことから、若手公認会計士に対して「早く海外に飛び出してほしい」と語ってくださった。また、伊藤さんは海外の価値観にアジャストしつつもいかにJapanクオリティを維持できるかが大切とも語ってくださり、日本人としての誇りを持ちながら海外で活躍したいなと素直に感じた。

最後にお会いしたのは、デロイトシンガポールの野田さん・古谷さん・家田さん



である。お三方はJSGという日系企業にサービスを提供するグループに所属されている。野田さん・家田さんは駐在中であるが古谷さんはローカル採用でデロイトシンガポールに所属されている。野田さんによれば、最近では海外派遣を志願する若手が減少傾向だそうで、日本人の持つ価値観を大切にしながらも様々な価値観を持つ人たちと仕事することでそのギャップを楽しんでほしいと語ってくださった。古谷さんと家田さんは全く異なるキャリアを歩まれてきているが、口をそろえて「まずはやってみるといふ精神を忘れないでほしい」と話してくださった。お三方とも海外で仕事をしていることを前向きに話してくださったのが非常に印象的であった。

この日の夜、インタビューに答えてくだ

さった皆様とディナーをご一緒する機会に恵まれた。昼間のフォーマルな雰囲気とは打って変わってワイワイと楽しい時間を過ごさせていただいた。長時間にわたりインタビューにご協力いただいた皆様にこの場をお借りして御礼を申し上げます。

三日目はISCAを訪問した。ISCAはシンガポールのビジネス街のど真ん中に位置しており、6階建てである。ビル内には会員が自由に使えるラウンジやFコーヒーマーカー、ミーティングルームなどが設けられており、とても綺麗で使いやすい印象を受けた。ISCAの職員の方にオフィスタワーをしていただき、普段は入れない場所まで案内していただいた。

その後、ISCAメンバーの皆様とディスカッションする機会を頂いた。今回の主な議題は、どうすれば日本の公認会計士の女性比率を高められるかという点であっ



た。シンガポールの会計士の女性比率が60%を超えていることからどのような背景があるのかについて大いに議論がなされた。非常に印象的だったのは、シンガポールの会計士も日本と同様の悩みに直面しているということだ。男女(父親母親)を問わず、キャリアを形成する上での悩みは共通していた。一方、シンガポールでは、ベビーシッター/メイドの普及・親の父母(子にとつての祖父母)との同居・保育園に相当する機関の充実など日本とは明らかに違う環境が整えられており、このあたりが日本との大きな違いであることが理解できた。また、シンガポールでは物価の高さや国の成り立ちなどの様々な要因から働きがスタンダードである点も事実である。



また、ISC Aでは会計士という職業の普及のために、中高生をISC A オフィスに招いて会計士の仕事を紹介するなどの取り組みもなされているとのことであった。本件は一朝一夕に解決する課題ではないが、シンガポールの様々な環境も考慮に入れないながらも、日本でのような施策として反映できるかを改めて考えていきたい。



海外視察メンバー

橋本和哉、井上新之介、佐川竜也、松田和也

今回のシンガポールでの海外視察では本場に大きな刺激をもらうことができた。Conferenceも日本人公認会計士インタビューもISC Aでのディスカッションも全てが刺激的で、一瞬で時間が過ぎてしまったように感じた。また、Conferenceやディスカッションに限らず視察の全ての場面で英語力の無さを痛感したのもまた良い思い出である。このような素晴らしい視察の機会を与えてくださった関係者の皆様に感謝を申し上げますとともに、今回の視察で持ち帰った様々な知見を余すことなく準会員・会員の皆様に還元する所存である。



---

日本公認会計士協会準会員会

■ お問い合わせ

[info@jija.jicpa.or.jp](mailto:info@jija.jicpa.or.jp)

■ WEB

<https://www.jija.jicpa.or.jp/>

●●信頼の力を未来へ

**jicpa**



日本公認会計士協会  
準会員会

